

178 イエスは父に至る道(二階の広間での説教1)

ヨハネによる福音書 14 : 1~14 (イエスの説教[遺言] : 第 14~16 章)

.....最後の晩餐が終わり、オリーブ山に向かう前の二階の広間でのことである.....

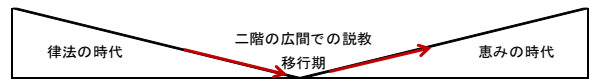
01 「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。

→ヨハネによる福音書 14 : 27 (聖書にある「心を騒がせるな」は、二か所のみである)

わたしは、平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。

→箴言 4 : 23

何を守るよりも、自分の心を守れ。そこに命の源がある。



02 (天国の) わたしの父の家 (→天、神の国) には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。 03 行ってあなたがたのために場所を用意したら、戻って来て、あなたがたをわたしのもつに迎える (→携挙 Rapture の約束≠再臨 Second Coming の約束)。こうして、わたしのいる所に、あなたがたもいることになる。04 わたしがどこへ行くのか、その道をあなたがたは知っている。

→すべての信者(贖われた人:キリストを信じ、罪を赦され、神の子とされた人)は天に住まいを持つことが約束されている。イエスは、公生涯、苦難(十字架)を通して、天の父なる神のもとに行こうとしている。

05 (他の 11 人の弟子たちの当惑を代弁し、疑い深い) トマスが言った。「主よ、どこへ行かれるのか、わたしたちには分かりません。どうして、その道を知ることができるでしょうか。」

→弟子たちには、イエスから十分な情報が毎回与えられていたにもかかわらず、それを理解できている者は誰もいなかった。

06 イエスは言われた。

「わたしは道であり、真理であり、命である (→NIV/NKJV : I am the way and the truth and the life.)。

わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない (→NIV/NKJV : No one comes to the Father except through me.)。

→ 道 →マルコ 1 : 2~3、ルカ 1 : 79、ヘブライ 10 : 20

→ 真理 →ヨハネ 5 : 33、8 : 46、17 : 17、エフェソ 4 : 21

→ 命 →ヨハネ 1 : 4、6 : 35、48、11 : 25、20 : 31、I ヨハネ 5 : 20

} 救いの道は、イエスにのみある。

【参考】新約聖書にある、イエスの宣言「わたしは...である」

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数 : 5 / 聖句等の総数 33250]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳)
S ヨハネによる福音書	6:41 ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から降って来たパンである」と言われたので、イエスのことであつぱやき始め、	
S ヨハネによる福音書	8:12 イエスは再び言われた。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」	
S ヨハネによる福音書	11:25 イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。	
S ヨハネによる福音書	14:6 イエスは言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことができない。	
S ヨハネによる福音書	15:1 「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。	

07 あなたがたがわたしを知っているなら、わたしの父をも知ることになる。今から、あなたがたは父を知る。いや、既に父を見ている。

→イエスはイエスこそが、神の真理を学び、神と共にある命を見出すための道であると主張している。

08 フィリポが（超自然的な神の顕現を期待して、口をはさんで）「主よ、わたしたちに御父（＝神）をお示してください。そうすれば満足できます」と言うと、

→フィリポは、イエスの教えと業が、父なる神の啓示であることを理解していない。そして、神を見たいというのは、弟子としての思いではなく、人間のすべてに当てはまる（→普遍的な）欲求である。

09 イエスは言われた。

「フィリポ、こんなに長い間一緒にいるのに、わたしが分かっていないのか。わたしを見た者は、父を見たのだ。なぜ、『わたしたちに御父をお示してください』と言うのか。

→フィリポも長期間、イエスと共にいたにもかかわらず、他の弟子たちと同じく、イエスのことを理解できていなかった。

10 わたしが父の内におり、父がわたしの内におられることを、信じないのか。わたしがあなたがたに言う言葉は、自分から話しているのではない。わたしの内におられる父が、その業を行っておられるのである。

11 わたしが父の内におり、父がわたしの内におられると、わたしが言うのを信じなさい。もしそれを信じないなら、業そのものによって信じなさい。

12 はっきりしておく。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行い、また、もっと大きな業を行うようになる。わたしが父のもとへ行くからである。

13 わたしの名によって願うことは、何でもかなえてあげよう。こうして、父は子によって栄光をお受けになる。

14 わたしの名によってわたしに何かを願うならば、わたしがかなえてあげよう。」

→イエスが神を父と呼ぶのは、神と特別な関係にあることと、神の民に関して権限を主張するためであった（詩編 2：6～7）。イエスのしてきたことー福音を伝え、奇跡を行うことーをフィリポと他の弟子たちも行うようになる。イエスは言っている（14：12）。

→わたしの名によって：神の御心に沿い、イエス・キリストの代理人として、祈ることである。

（Ex）主、イエス・キリストの御名によって、お祈りいたします。

→祈りの方法が旧約時代と異なり、変化した。

①旧約時代の祈りは、直接、神に向けられた。

②新約時代の祈りは、大祭司イエス・キリスト（仲介者）を通して、父なる神に向けられた。

【参考】仲介者（口語訳：仲保者）

タイトル(書名)	章:節 聖句 [検索対象総数：4 / 聖句等の総数 33250 <仲介者>4個]	聖書Navi Active 393128091 (新共同訳) [検索語彙：仲介者]
S テモテへの手紙 I	2:5 神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。	
S ヘブライ人への手紙	8:6 しかし、今、わたしたちの大祭司は、それよりはるかに優れた務めを得ておられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の仲介者になられたからです。	
S ヘブライ人への手紙	9:15 こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者なのです。それは、最初の契約の下で犯された罪の贖いとして、キリストが死んでくださったので、召された者たちが、既に約束されている永遠の財産を受け継ぐためにほかなりません。	
S ヘブライ人への手紙	12:24 新しい契約の仲介者イエス、そして、アベルの血よりも立派に語る注がれた血です。	

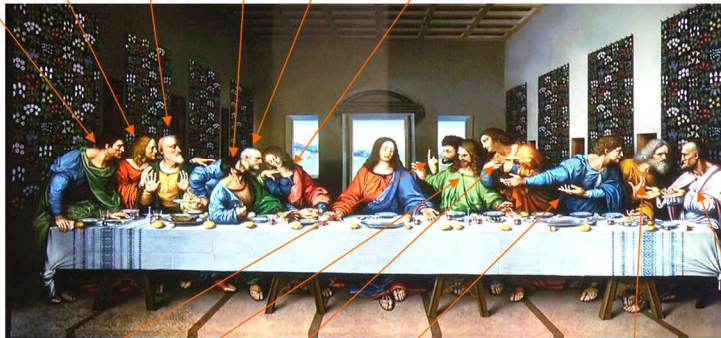
【参考】トマスとフィリポ

十二使徒の名は次のとおりである。まず①ペトロと呼ばれるシモンと②その兄弟アンデレ、③ゼベダイの子ヤコブと④その兄弟ヨハネ、⑤フィリポと⑥バルトロマイ、⑦トマスと⑧徴税人のマタイ、⑨アルファイの子ヤコブと⑩タダイ、⑪熱心党のシモン、それに⑫イエスを裏切ったイスカリオテのユダである（マタイによる福音書 10：2～4）。

⑫有名なレオナルド・ダヴィンチの最期の晩餐であるが、実際の過越しの食事とは異なる。

- ⑥バルトロマイ (本名:ナタナエル) ⑨小ヤコブ (アルファイの子) (義人ヤコブ) (シモン・ペトロの弟) ②アンデレ ⑫ユダ (イスカリオテのユダ、後任:アティア) ④ヨハネ(最年少・大ヤコブの弟) ①ペトロ(ペトロと呼ばれるシモン) ※イエスの愛しておられた弟子(ヨハネ21:20)

イエス・キリストが処刑される前夜、十二使徒と共に摂った過越しの食事(最後の晩餐)



※兄弟：①と②、③と④、⑨と⑩

- ⑧トマス ③大ヤコブ ⑤フィリポ ⑦マタイ(レビという徴税人) ⑩シモン(熱心党のシモン) (ディディモ) (ゼベダイの子ヤコブ、使徒ヨハネの兄、雷の子らーマルコ3:17)

→トマス Thomas 「双子」アラム語 あだ名:「ディディモ」、漁師または大工／ガリラヤ出身

思ったことを隠せない正直者で、見たものしか信じられない愚直なところがあった。イエスの復活も信じてことができず、「疑い深きトマス」といわれる。最後の晩餐の席で、イエスが死を予言して父の家に行くといったときは、トマスだけは正直に疑問を呈した。復活したイエスから、「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」と言われ、もはや疑うことはできず、イエスの復活を信じた。

トマスはインドまで赴いて宣教し、南インドで、バラモン教徒により槍で突き刺され、殉教したとされているが、史実的な裏づけはない。

→フィリポ Philippe 「馬を愛する者」(ギリシア語) 漁師／ガリラヤ・ベトサイダ出身／バルトロマイの友人

フィリポ(ベトサイダ出身)は、イエスが「私についてきなさい」とはっきり命じた最初の弟子である。洗礼者ヨハネが活動していたヨルダン川の近くにいたことから、もとはヨハネの弟子だったのではないかとされる。フィリポは四福音書の十二使徒のリストすべてに登場するが、その記事はあまり多くなく、「ヨハネによる福音書」に集中(12回登場)している。十二使徒の中で気弱な面もあるが、最も親しみやすい人柄であり、イエスと共に旅をする間は食糧調達係としてよく働いた。伝道者としては、イエスの教えを広めるといより、人々を直接イエスのもとに導く働きをした。十二使徒の1人バルトロマイ(ナタナエル)もフィリポに伴われてイエスの弟子になった。

ギリシアやフリギアで布教した後、小アジアで十字架にかけられ、石打ちにされ、殉教した。

【参考】メシアとキリスト

メシア ヘブライ語、「マシアハ(マーシャハ)」すなわち「油を注ぐ」から派生した語である。原意は「油を注がれた者」の意で、「王」「預言者」「祭司」がこれに該当する。

キリスト メシアのギリシア語訳が「クリストス」で、「キリスト」はその日本語表記である。ここから「救い主」「救世主」を表す語として一般的に用いられるようになった。